

## 『私たちの歴史総合』 観点別評価規準一覧（案）

月	時数	編	章	節	①知識及び技能	②思考力・判断力・表現力等	③主体的に学習に取り組む態度
<b>学習指導要領 『歴史総合』</b> <b>1 科目の性格と目標</b> <b>(2) 目標</b>					<p>近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p>	<p>近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p>	<p>近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>
4月	1	歴史の扉	歴史と私たち		<p>これから「歴史総合」を学ぶにあたって、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的にまとめる方法を理解している。</p>	<p>4つのテーマに対して、時期や年代推移などに着目して、多面的・多角的に考察することができる。</p>	<p>4つのテーマについて主体的に追究、解決しようとする中で我が国の歴史に対する愛情を深めることができる。</p>
4月	1		歴史と資料		<p>資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解し、様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。</p>	<p>複数の資料の関係や異同に着目して、資料から読み取った情報の意味や意義、特色などを考察し、表現できる。</p>	<p>資料により歴史が構築されたという学びを通して、資料の多面的な読み取りを行い、積極的に学習に取り組んでいる。</p>
4月	2	第1編 近代化と私たち	近代化への問い	近代化への問い	<p>近代化にともなう人々の生活や社会の変容を示す資料から一つ以上のテーマを選んで、問いを設定し、情報を読み取った事柄をまとめたりすることができる。</p>	<p>近代化にともなう人々の生活や社会の変容について、資料を比較したり、相互の関連性や現在とのつながりなどに着目して考察することができる。</p>	<p>複数の資料に対して気付いたこと、興味・関心を持ったものや疑問に思ったことを書き出した中から、追究したいことに意欲的に取り組んでいる。</p>
4月	4		第1章 結びつく世界と日本の課題	1節 18世紀の日本とアジアの経済と社会	<p>18世紀の日本とアジアの生産と流通、アジアの各地域間や西欧列強との貿易について理解し、日本の交通網や世界の貿易図などの地図を正確に読み取ることができる。</p>	<p>18世紀における日本や中国の経済状況と欧米の進出政策との関係を、多面的・多角的に考察し、正確に表現することができる。</p>	<p>18世紀の日本とアジア諸国の社会情勢を経済的視点から捉えたり、他の時代と比較したり相互に関連づける等、主体的に問いや見通しをもって学習に臨んでいる。</p>
5月	4			2節 工業化の進展と世界市場の形成	<p>イギリスに始まった産業革命と交通・通信手段の革新、中国の開港と日本の開国などを相互的に捉え、世界の工業化と世界市場の形成の過程について理解できている。</p>	<p>18世紀の産業革命が、現代の資本主義の社会構造とつながることを考察し、中国や日本の外交方針に多大な影響を与えたことをわかりやすく説明することができる。</p>	<p>産業革命によってもたらされた19世紀の「パクス=ブリタニカ」が欧米諸国や日本や中国に与えた影響を、多面的・多角的に追究することができる。</p>
6月	5	第2章 国民国家と明	3節 立憲体制と国民国家の成立	<p>西欧の市民革命やアメリカの独立戦争、日本の明治維新から大日本帝国憲法の制定までの過程をもとに、立憲体制による国民国家の成立の歴史を理解できている。</p>	<p>西欧の市民革命やアメリカ独立戦争、南北戦争などの政治変革の特徴を比較することで、背景となった啓蒙思想を多角的に考察し、表現できる。</p>	<p>アジアで初めての近代国家建設の歴史を、明治新政府樹立から大日本帝国憲法の制定までを理解することで、日本国民としての自覚を深めることができる。</p>	

『私たちの歴史総合』 観点別評価規準一覧表（案）

月	時数	編	章	節	①知識及び技能	②思考力・判断力・表現力等	③主体的に学習に取り組む態度
6月	4		治維新	4節 列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容	欧米列強が圧倒的軍事力を背景に世界の植民地化を進めていった過程と、日本が日清・日露戦争を経て、国際社会の地位を高めていった過程を理解できている。	欧米列強の帝国主義政策によって、どのようにアジア諸国の外交政策が変容していったかを把握し、解決を視野に入れて構想し効果的に説明できる。	日清・日露戦争の日本の勝利が植民地支配に苦しむアジア・アフリカ諸国に民族自決の動きを促したことなどから、我が国の歴史に対する愛情を深めることができる。
7月	3		近代化と現代的な諸課題		5つの観点を手がかりに、主題を設定し、対立する二つの要素の両方の側面から現代的な諸課題に関わる近代化の歴史を理解できている。	近代化の時代に生じた課題についての資料をもとに、当時の人々の受け止め方や決断の理由、対処方法についてまとめ、多角的・多面的に検討する。	近代化がもたらした現代的な諸課題について、主題に沿って問いを設け、課題に関する資料を採すなど主体的に追究しようとしている。
7月	2	第2編 国際秩序の変化や大衆化と私たち	国際秩序の変化や大衆化への問い	国際秩序の変化や大衆化への問い	国際秩序の変化や大衆化の時代を示す資料から一つ以上のテーマを選んで、問いを設定し、情報を読み取った事柄をまとめたりすることができる。	国際秩序の変化や大衆化の時代について、資料を比較したり、相互の関連性や現在とのつながりなどに着目して考察することができる。	複数の資料に対して気付いたこと、興味・関心を持ったものや疑問に思ったことを書き出した中から、追究したいことに意欲的に取り組んでいる。
9月	4		第3章 第一次世界大戦と大衆社会の出現	第5節 総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制	第一次世界大戦の展開と総力戦としての性格について理解するとともに、大戦後の国際協調体制の目的がわかる資料を効果的にまとめることができる。	総力戦としての性格がなぜ生まれたという理由を、技術の進歩や産業構造の変化を踏まえて多面的・多角的に考察し、説明することができる。	国家のあらゆる物資と能力をつぎこむ総力戦となった背景と第一次世界大戦後の国際協調体制について、問いや追究の見通しを持って意欲的に取り組んでいる。
9月	4			第6節 大衆社会の形成と社会運動の広がり	第一次世界大戦の影響によって大衆社会が形成され広まっていく過程や女性の社会進出、教育・マスメディアの発達について理解し、その知識を身に付けている。	大衆社会が形成され、教育の広がりやマスメディアの発達など社会がどのように変化していったのか社会的な見方・考え方をを用いて考察し、説明することができる。	大衆社会の形成と社会運動の広がりについて、よりよい社会の実現のための運動としての認識を持ち、自国と他国の文化を尊重しながら学ぶ姿勢を持っている。
10月	3		第4章 経済危機と第二次世界大戦	第7節 国際協調体制の動揺	第一次世界大戦後に形成された国際協調体制が、世界恐慌によって動揺し、不穏な情勢がヨーロッパやアジアを覆っていく過程を理解し、その知識を身に付けている。	世界恐慌が国際協調体制をどのように崩壊へ導いたのか考察し、その課題を克服するためにどのような対応が可能であったか説明したり議論したりしている。	第一次世界大戦後の国際協調体制の動揺について、課題解決の方策を考え、現代の私たちが置かれている状況に生かそうとしている。
10月	5			第8節 第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰	第二次世界大戦の過程と、大戦後形成されていった新たな国際秩序について、世界の動きと日本の動きを相互に関連付けて理解できている。	第二次世界大戦後に形成された新たな国際秩序が、ワシントン体制の課題をどのように克服したものであるかということについて、比較考察し説明することができる。	第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を学習し、現代の日本の国際的役割を考えるなど、よりよい社会の実現を考えようとする姿勢が見られる。

『私たちの歴史総合』 観点別評価規準一覧表（案）

月	時数	編	章	節	①知識及び技能	②思考力・判断力・表現力等	③主体的に学習に取り組む態度
11月	3		国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題		5つの観点を手がかりに、主題を設定し、対立する二つの要素の両方の側面から現代的な諸課題に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史を理解できている。	国際秩序の変化や大衆化の中で生じた課題についての資料をもとに、当時の人々の受け止め方や決断の理由、対処方法についてまとめ、多角的・多面的に検討する。	国際秩序の変化や大衆化がもたらした現代的な諸課題について、主題に沿って問いを設け、課題に関する資料を探すなど主体的に追究しようとしている。
11月	2	第3編グローバル化と私たち	グローバル化への問い	グローバル化への問い	グローバル化に関する資料から一つ以上のテーマを選んで、問いを設定し、情報を読み取った事柄をまとめたりすることができる。	グローバル化について、資料を比較したり、相互の関連性や現在とのつながりなどに着目して考察することができる。	複数の資料に対して気付いたこと、興味・関心を持ったものや疑問に思ったことを書き出した中から、追究したいことに意欲的に取り組んでいる。
11月	4		第5章 冷戦と国際経済	第9節 国際政治の変容	戦後のアジア・アフリカ諸国の動向、冷戦下の地域紛争、米ソ中の動向、核兵器の管理などを基に国際政治の変容について理解し、その知識を身に付けている。	冷戦下の国際政治について、米ソ両国を軸にした展開に着目しながら、大国の内政・外交政策と地域紛争の関連を考察している。	冷戦下の国際政治の推移に関する諸現象について、東西両陣営の対立やアジア・アフリカ諸国の独立が現代的な諸課題と繋がっていることを追究している。
12月	4			第10節 世界経済の拡大と日本の高度経済成長	西欧・東南アジアの地域連携、共産圏の経済、日本の高度経済成長などを基に、世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会を理解し、その知識を身に付けている。	自由主義経済と社会主義経済に分断された世界において経済発展がどのように模索されたか、それぞれを比較して類似や差異を明確にすることができる。	ヨーロッパや東南アジアにおける地域連携が進んだ過程や、日本の高度経済成長によるめざましい進展について、主体的に追究している。
1月	4		第6章 世界秩序の変容と日本	第11節 市場経済の変容と課題	石油危機、アジア諸地域の発展、経済の自由化、情報通信技術の発展などを基に、市場経済の変容と課題について理解し、その知識を身に付けている。	1960年代以降の経済体制の変動や1970年代の二度の石油危機の影響に着目し、従来の世界には見られなかった進展と課題について構想することができる。	ソ連を中心とした社会主義経済がゆきづまった原因や、西側先進諸国における生産技術や高度情報通信技術の進歩がもたらした課題について、意欲的に追究している。
1月	4			第12節 冷戦後の国際政治の変容と課題	冷戦終結、民主化の進展、地域統合の変容、地域紛争の拡大などを基に、冷戦終結後の国際政治の変容と課題について理解し、その知識を身に付けている。	冷戦終結や地域統合の背景と影響に着目し、自由な市場経済のグローバル化による先進国と発展途上国との経済格差などについて多面的・多角的に考察している。	急速に進むグローバル化に対する反動や頻発する地域紛争について、冷戦後の国際政治の変容を踏まえて、意欲的に追究している。
2月	3		現代的な諸課題の形成と展望		「歴史総合」の学習を振り返り、自ら主題を設定し、情報を収集し、必要な情報を選んだり、複数の情報を結び付けたりして、調べまとめる技能を身に付けている。	「歴史総合」の学習を振り返り、自ら設定した主題について、事象の原因や結果などに着目して、比較・関連付け、考察・構想したことを、効果的に説明できる。	「歴史総合」の学習を振り返り、自ら設定した主題に粘り強く取り組むことで、学んだことの意味や価値に気付き、よりよい社会の実現に生かそうとしている。
合計	66						
予備	4						
総計	70						